

2021年6月23日 慰霊の日に寄せて 司教メッセージ

「誰^{たあ}ん恨^{うら}みらん 戦^{いくさ}争^{うら}ん怨^{うら}みゆさ」

すべての兄弟姉妹の皆さん、

今年も6月23日がめぐってきました。戦^{いくさ}争^{うら}の犠^{いくさ}牲^{うら}者を追悼し、世界平和を祈念する特別な沖縄慰霊の日です。例年行っている小^{おる}禄^{くき}教会^{ようかい}での戦^{いくさ}争^{うら}犠^{いくさ}牲^{うら}者追悼・平和祈念ミサ、平和巡礼、魂^{こん}魄^{ぱく}の塔^{とう}での祈りの集^つ会^{どい}は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため今年も休止となりましたが、それに代えて各小教区で同時刻に追悼ミサを捧げ、平和を祈り求めます。

大城カメさんの琉歌

沖縄戦によってご主人を摩文仁周辺の激戦地で失い、生き残った三人の幼い子をひとりで育てなければならぬ大城カメさんは、その心のおもいを琉歌に詠みました。

『「戦^{いくさ}争^{うら}たみなかい 後^く盾^さ失^うなたさ 誰^{たあ}ん恨^{うら}みらん 戦^{いくさ}争^{うら}ん怨^{うら}みゆさ」

「戦^{いくさ}争^{うら}世^しん終^{しま}ち 弥^{みる}勒^く世^{ゆん}願^にって 苦^あ労^{わり}や一^{いち}時^{つどい} 楽^{らく}や何^い時^ちまでん」

「三^{みつ}人^ちの生^ちし子^{いぬ}の 後^く盾^さでむぬ ち^はと^{たら}と働^すちやい 育^すていかな」 (琉歌)』

戦^{いくさ}争^{うら}のために 後^うろ^しる^だて^だて 盾^だて(夫)を失^うってしまったが、誰^うも恨^うま^らない 戦^う争^らを怨^むむよ。

戦^{いくさ}争^{うら}が終^すんで、平和な世界を願^いう。苦^い労^とは一^いつ^とき、幸^い福^とはいつまでもと祈^いる。

(私^わが)三^う人^しの子^ら供^らた^ちの 後^うろ^しる^だて^だて 盾^だてだから、し^しっ^かり働^いて 育^うて^てい^かね^ば。

(日本語訳)

平和を希求する沖縄の信条

大城カメさんの詩^うたは、戦^{いくさ}争^{うら}を生き抜^かき、艱^{かん}難^{なん}を過^かぎ越^こしたウチナーチュの心^この声^{こゝろ}であり信条^{しんぎょう}です。大城カメさんのご主人^ごがなくな^なった摩^ま文^{ぶん}仁^ににある「沖縄県平和祈念資料館」の展^{てん}示^し室^{しつ}の出口^{でぐち}に「むすびの言葉」が掲^かげら^れてい^ます。

「沖縄戦の実相^{じつさう}にふれるたびに 戦^{いくさ}争^{うら}というものはこれほど残^{ざん}忍^{にん}で これほど汚^お辱^{じよく}にまみれたものはないと思うのです この なまなましい体^{てい}験^{げん}の前^{まへ}ではいかなる人^{ひと}でも戦^{いくさ}争^{うら}を肯定^{きやうてい}し美^み化^かすることはできないはず^{はず}です 戦^{いくさ}争^{うら}をおこすのは たしかに 人^{ひと}間^まです しかし それ以上^{いじやう}に戦^{いくさ}争^{うら}を許^{ゆる}さない努力^{どりよく}のできるのも私^{わたし}たち 人^{ひと}間^ま ではないでしょうか 戦^{いくさ}争^{うら}後^ごこのかた 私^{わたし}たちは あらゆる戦^{いくさ}争^{うら}を憎^{にく}み平和^{へい}な島^{しま}を建^た設^せせねば」と思^{おも}いつづけてき^ました これ^{これ}が あまりにも大^おきすぎた代^{だい}償^{じやう}を払^はって得^えたゆ^ゆずることのできない 私^{わたし}たちの信^{しん}条^{ぎょう}なので^す」

この沖縄の信^{しん}条^{ぎょう}は、まことに福音^{ふくいん}的で人^{ひと}知^ちを超^こえた普^ふ遍^{べん}的な確^{かく}信^{しん}です。しかし残^{ざん}念^{ねん}ながら、このように高^{こう}邁^{まい}な理^り想^{さう}とはかけ離^{はな}れ行^いく現^{げん}実^{じつ}があり^あります。い^いく

ら平和を渴望^{かつぼう}し、その意思を示してもその声をかき消す圧力が幾重にもこの島を襲っています。それでも決して諦めない地道な歩みは、徹底した非暴力と隣人愛に貫かれた行動、だれも憎まず、敵対する者をも思いやる心、過激に暴力的に訴えず、ひたすら不屈の強い意志でしなやかに、直^{なお}く強い竹のように、佇^{たたず}みます。それは、だれをも否定しない正しさと優しさと勇氣に溢れています。

こうしたウチナーチュの平和希求の行動は、私たちの主イエスの教えに合致し、これからの世界平和への歩みの先駆けであることをフランシスコ教皇の発言は後押ししています。

真の平和を実現するための非暴力

«今、イエスの真の弟子であることは、非暴力というイエスの提案を受け入れることでもあります。わたしの前任者であるベネディクト十六世が述べたように、「イエスの提案は現実的なものです。なぜならそれは、世界の中に『あまりにも大きな』暴力と『あまりにも大きな』不正があること、ですから、『より大きな』愛、『より大きな』いつくしみをもって対抗しなければ、このような状況を克服することはできないことを考慮に入れているからです。この『より大きな』ものは神から来ます」。さらに次のように強調しています。「ですから、キリスト信者にとって非暴力は単なる戦術的な行動ではなく、人格のあり方だということが分かります。それは神の愛とその力を確信する人の態度です。このような人は愛と真理という武器のみによって悪に立ち向かうことを恐れないからです。敵への愛は『キリスト教の革命』の核心です」。敵を愛するよう求める福音（ルカ6・27参照）は、とりわけ「キリスト教の非暴力の『憲章』」と考えてよいものです。キリスト教の非暴力とは、悪に屈することではなく、……むしろ、善をもって悪に対抗することです（ローマ12・17-21参照）。こうして不正の鎖を断ち切ることができます。」»（第50回「世界平和の日」教皇メッセージ「非暴力、平和を実現するための政治体制」）

さあ、ウチナーチュよ！胸を張って生きよう！わたしたちの歩みは、実現不可能な誤った理想主義では決してありません。わたしたちはすでに終戦直後から平和への道のりを平和裏に歩んできました。その非暴力の歩みこそは平和実現の始まりそのものです。不平等や不正、抑圧や暴力、威圧や脅迫が幾重にも襲って来ても、神がさし示した平等と公正、優しさと愛による平和実現を決して諦めることなく、両手をかざして舞い唄いながら、喜びをもってしなやかに、かるやかに、私達らしく非暴力の平和の道を歩みつづけましょう！

カトリック那覇教区長
司教 ウェイン・バーント